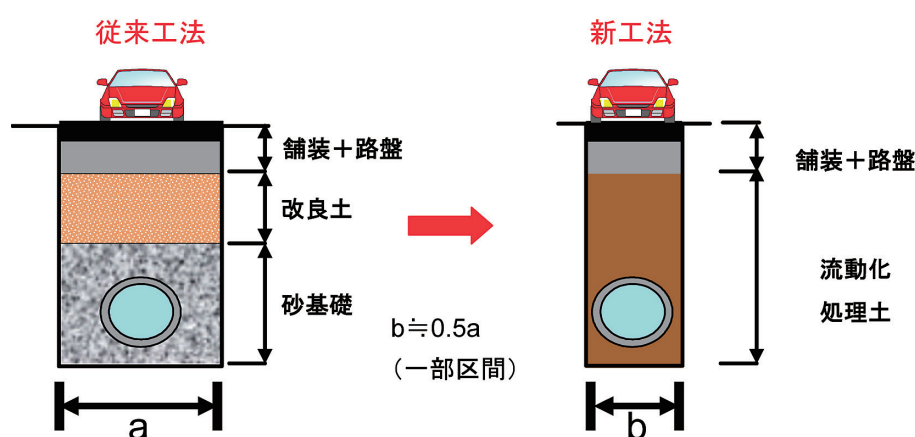


サステイナブル活動部門

りゅうどうかしよりど とくせい い かん せいびしゅほう
流動化処理土の特性を活かした管きょ整備手法によるコスト
しゅくげん
縮減

静岡県浜松市



一部の工事区間では掘削幅を約1/2程度に縮小



写真：流動化処理土打設状況

効果

流動化処理土は流動性に優れ、自硬性を有することから転圧が不要となり、**工期の短縮**が図られます。

転圧が不要なため、掘削幅を縮小することができ、**コスト縮減**が図られます。

発生土の約6割を流動化処理土の原料として流用することができ、**建設残土の抑制**が図られます。

浜松市の下水道事業は平成17年度の12市町村合併により、11処理区を有することとなり、平成20年度末の人口普及率は75.9%となっています。昨今の厳しい財政状況を踏まえ、社会基盤としての役割を担う下水道事業の経営の一層の効率化と合理化を進め、快適な生活と水環境の創出・維持を目指しています。

地域の実情に応じた低コストで、早期かつ機動的整備が可能な新たな整備手法の確立を目的に下水道未普及解消クイックプロジェクト社会実験制度が国土交通省にて創設されました。本市でも、地域の実情にあった効率的な整備手法の確立がコスト縮減や未普及地区の解消につながると考え、社会実験に応募し流動化処理土の特性を活かした管きょ整備を実施しました。

本整備手法は流動性に優れ、自硬性を有する流動化処理土を管きょ基礎や埋戻しに使用するもので、コスト縮減効果や工期短縮効果などが確認されました。